

議事要旨(4) FASB公開草案「財務報告のための概念フレームワーク - 第8章：財務諸表注記」へのコメント対応

関口常勤委員より、FASB公開草案「財務報告のための概念フレームワーク - 第8章：財務諸表注記」の概要及びこれに対するコメントの方向性（案）について、詳細な説明がなされた。

説明に対する委員からの主な意見と、それらに対する事務局からの回答は次のとおりである。

- ある委員より、説明資料について次のような意見があった。
 - 個別質問に関する追加的な回答案において、「利用者に提供される情報が複雑であり過ぎる場合」に追加的コストが発生するとしているが、「情報が膨大であり過ぎる場合」も同様であると考えられるため、これを追記したほうが良いのではないかと。
- ある委員より、説明資料について次のような意見があった。
 - コメントの方向性案の総論において、「財務報告の情報の境界と財務情報の質的特性」の観点から整理することが望ましいという記述があるが、財務報告には MD&A が含まれるため、財務報告から MD&A を切り離れた「財務諸表の情報としての境界」がどうあるべきかを明確にすることを主張してはどうか。
 - 「質問 6：報告企業についての情報」に関して、関連当事者及び関連当事者との取引の開示を特に必要とする理由については、色々な見方があり得るが、財務諸表注記という位置づけを考えるとコーポレートガバナンス的な側面は副次的なものと考えられる。このため、財務諸表本体からは容易に把握できない、企業の財政状態や経営成績に及ぼす影響を、利用者が適切に理解できるようにするという観点から開示が求められるという点をコメントしてはどうか。
- ある委員より、「FASB による業績報告に関するプロジェクト」において、「基本財務諸表間の連携」という記載があるが、これはどのような意味かという質問があった。
 - これに対して事務局より、次のような回答がなされた。

「基本財務諸表間の連携」は「cohesiveness」といわれる部分であるが、FASB からは、以前の財務諸表の表示プロジェクトでいわれていたような包括的なものではなく、限定的なものが意図されているという説明がされている。また、特に直接法のキャッシュ・フロー計算書については、今回のプロジェクトにおいて検討しないこととされている。

以上